



平成19年度 施政方針

市民の声をよく聞き、よく見える「市民のための行政」をめざし、昨年9月に策定した総合計画の将来像「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」の実現に向け、市職員一丸となって、公平公正な行財政運営に努め、しっかりとした仙北市の基礎をつくるために、全力を尽くして市政運営に取り組みます。

仙北市長 石黒直次

◇ 政策の基本方針 ◇

《仙北市総合計画の推進》

多くの市民の皆様からの意見等を踏まえ、これからのまちづくりの指針となる「仙北市総合計画」を策定しました。

計画では、定住人口3万人、交流人口1,000万人のまちづくりを進めることとし、平成19年度に緊急に取り組むべき主要課題として、「定住対策」「テンミリオン計画」「産業連携」の3つの重点プロジェクトを設定し、専任の職員を配置するとともに、市民との連携等を密にしながら新年度の最重点項目として積極的に取り組みます。

《行政改革の推進》

行政改革大綱を策定し、今後5年間に取り組むべき行財政改革の基本方針を定めました。

平成19年度は、行動計画に基づき、行政改革プロジェクトチームによる調査検討を行うとともに、提示した数値目標の達成や新たな目標の設定等により、具体的な成果を示していきます。

《行政への市民の参加》

主要な計画の策定等にあたっては、市民の意見を聞くパブリックコメント制度の活用や行政懇談会の開催、懇談会等の委員について公募委員枠を設けるなど、市民の声を取り入れる方を講じます。また、広報やホームページ等による情報公開や情報提供に努め、市民にわかりやすい市政運営を心がけます。

◇ 重点事業と予算案の概要 ◇

平成19年度一般会計予算の総額は、180億8千8百万円で、昨年度に比較し3億円(1.6%)の減額予算となっています。

歳出の主な事業としては、秋田わか杉国体整備事業費及び実行委員会補助金として4億8千13万2千円、地方道路整備臨時交付金事業3億1千165万円、市道整備事業費2億5千万円、中山間地域総合整備事業1億百2万円、統合小学校建設事業費10億4千7百24万1千円、まちづくり交付金事業1億5千6百万円、市営住宅建設事業1億8百9万5千円等です。

重点プロジェクト関連事業費は総額7百89万8千円で、平成18年度補正予算分を加えると1千9百17万8千円となります。

◇ 各部等の事業の概要 ◇

【総務部関係】

〔定住対策プロジェクトの推進〕

すでに田沢地区の空き家調査等に取り組み、平成19年度は、角館地区、西木地区にモデル地区を設定し、調査範囲を拡大するとともに、「仙北市空き家情報バンク(仮称)」を開設し、定住希望者への情報提供に努めます。

団塊の世代や田舎暮らしに興味のある家族等を対象に、本市の特色を活かしたさまざまな体験を通じて、魅力を認識していただく「スローライフモニター体験事業」を関係機関の協力のもとに行うことにしています。

〔男女共同参画計画の策定〕

関係機関との連携のもとに各種の啓発事業に取り組んでいましたが、平成19年度は「男女共同参画計画」を策定し、基本的な取り組み方針を定め、市民へのPRや啓発事業の推進に努めます。

〔秋田内陸線の運行〕

再生計画の目標期限である平成22年度まで可能な限り乗車促進運動に取り組んでいきます。

今後、関係自治体及び関係機関と対応策を協議し、市民の意向を十分に踏まえ、秋田内陸線の存続について、慎重に検討していきます。

〔市民バス〕

生活バス路線の白岩線について、バス事業者より本年9月をもって路線廃止の協議がされています。この対応策として、現在、予約により利用者に対応するデマンド型バスや市民バスの運行等について、課題を整理し、「仙北市地域公共交通会議」や地元への説明会等を通じて、住民の理解を得ながら具体的な代替交通手段について検討します。

〔本庁舎方式の検討〕

分庁舎方式の解消や新庁舎の整備については、合併協議時から大きな課題ですが、平成19年度、新庁舎整備調査費を計上し、当面は、本庁舎方式に移行した場合の組織機構のあり方について検討するとともに、既存の施設の活用を含めて、本庁舎の位置、施設の規模等について調査検討を進めます。

〔医師確保対策〕

地方の自治体病院の勤務医師不足が顕著になっている中で、市立病院でも医師確保が大きな課題です。

市立田沢湖病院では、日常の診療をはじめ、休日や夜間の当直医について、非常勤医師を派遣してもらい診療体制を整備しております。

今後、常勤医師の派遣について各方面に強く働きかけるとともに、県のドクターバンク制度などを活用し本市の病院に勤務する意向のある医師に対し、直接面談するなど常勤医師確保に努めます。

〔市税の収納状況〕

2月末現在、現年度過年度合わせて、一般税が85.74%、国民健康保険税は72.84%の収納率で、一般税は、前年同期と比較して1.1%の減となっています。税の公平性、自主財源の確保の見地から、収納率の向上は緊急の課題であることから、2月1日付けで「仙北市市税等収納対策本部」を設置し、収納率の向上、確保を目指し、出納閉鎖まで全庁体制のもとに努力を続けます。

〔国体事務局〕

カヌー競技会、軟式野球競技会、馬術競技会のほか、デモンストレーション競技のデュアスロン競技が9月から10月に開催されます。秋田わか杉国体を、本市の魅力を広く全国にPRする絶好の機会ととらえ、市民一丸となって大会の成功に向けて取り組みます。



〔市民福祉部関係〕

〔交通安全・防犯対策〕

交通弱者の事故防止、飲酒運転の撲滅を最重点に、交通事故による犠牲者を出さないよう関係機関や交通指導隊、地区交通安全協会等と緊密な連携を図り、交通安全啓発活動の充実に努めます。

全国的な凶悪犯罪の発生は極めて憂慮すべき事態であり、通学路の安全、安心のため学校や家庭、防犯指導隊や防犯協会等による巡回を強化し、犯罪の未然防止に努めます。

〔生活環境整備・環境保全センター〕

昨今の異常気象の原因と考えられている地球温暖化対策のため、市の「地球温暖化対策推進実行計画」の策定を進めます。

「汚泥再生処理センター」の建設を平成19年度、20年度の2年の継続事業として実施します。

廃棄物処理対策として、ごみの減量に努めるとともに資源ごみの分別収集を推進します。

〔消防・防災〕

防災計画策定後、「危機管理計画」を策定し、各種災害に対する初動体制の確立を図り、情報収集や通信伝達体制の整備など災害応急体制に努めます。

〔保健事業〕

本市の自殺率が全県平均を上回っていることから、県の「心の健康づくり・自殺予防対策モデル事業」の指定を受け、平成19年度から3年間、この対策に取り組みます。

〔児童福祉〕

児童手当に代表される各種経済的支援策や市立保育園で取り組んでいる延長保育なども継続して進めるほか、角館地区に放課後児童クラブを併設した児童館を開設し、安全で安心できる環境を整備します。

〔高齢者福祉〕

本市の高齢化率は、平成19年2月末現在31.12%と前年同期より0.54%上回り、要介護認定者は、前年同期より67人多い1,843人となっております。

平成19年度も、関係機関が連携し高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう介護予防などの支援事業の実施に努めます。

〔老人福祉施設等〕

仙北市包括支援センターは2年目を迎え、高齢者の方々が住みなれた仙北地域で元気に暮らせるよう、地域支援事業の充実に努めるとともに、新規事業として介護認定要支援1、2の方を対象に介護予防プラン作成を開始し、介護保険サービス、保健・福祉サービスを組み合わせ要介護状態になることの予防に努めます。

〔障害者福祉〕

新サービス体系への移行による一般就労などに向けた取り組みや地域生活支援事業、さらには障害者施設等との連携を図り、障害者の自立と社会参加の実現に向け生活支援・福祉サービスを推進します。

【産業観光部関係】

〔農業関係〕

平成19年度より新たな需給調整システムへの移行と品目横断的経営安定対策の導入により、一定要件を満たす担い手に重点をおいた取り組みを推進します。



平成18年12月22日に県から通知された、平成19年度産米の仙北市の需要量については、昨年より97トン多い1万9千73トンとなっています。

市単独による「集落営農組織設立支援事業」、「売れる米づくり推進事業」を実施するとともに、複合経営等への支援として県事業の「目指せ“元氣な担い手”農業夢プラン応援事業」への嵩上げ助成を行います。

「産業連携プロジェクト」推進として、関係機関との連携を図り、新たな食品の掘り起こしと地産地消の推進に努めます。

新規事業として、農林業者が他産業と連携し、アグリビジネスへの新規参入、もしくは業務拡張に取り組む場合、支援を行っていきます。

〔畜産関係〕

家畜総合防疫事業等により安全な畜産物生産に努めるとともに、生産基盤の確立を図るため家畜導入事業や、強い農業づくり交付金事業による飼料生産機械の導入、さらには大覚野牧場の活用促進による低コスト生産を推進します。

〔林業関係〕

森林所有者等による計画的かつ一体的な森林施業の実施に不可欠な森林の現況調査や、その他の地域における活動に対し、森林整備地域活動支援交付金を交付いたします。

都市住民と市民が森林作業を共同で行う作業体験、市内の各学校と連携し、小中学生を対象とした森林体験学習等を実施し、森づくりへの意識の高揚を図ります。

〔観光振興〕

「デン・ミリオン計画」を推進する施策を具体化するために、「観光振興計画」を策定します。策定に当たっては、作成委員会を組織し、観光振興に対する発展的な意見を集約し実践に移せる内容にしたいと考えています。

「デン・ミリオン計画」達成のためには、観光産業と他産業の連携強化も欠くことのできない重要課題であり、観光産業と他産業が有機的に連携できる体系を創りあげ、観光消費の相乗効果を生み出すことにより、市産業全体の底上げを図っていきます。

県営事業で現在着工している抱返り溪谷遊歩道が、回廊の滝まで本年9月中に完成予定です。

玉川温泉と新玉川温泉を結び岩盤浴地に通じる遊歩道は、近年崖地から落石する箇所があり、県に対し早急な整備を強く望んでいましたが、平成19年度県営事業により着工されることが決まり、現時点では2カ年計画で施工されることになっています。

〔雇用対策〕

ハローワーク大曲・角館管内における平成19年3月高校卒業者の就職内定率は、平成19年2月現在で92.4%となっております。

本年度においても、高校生を対象とした事業所視察会の開催や求人情報の迅速な提供などにより、市内への就職希望者に対する就労支援に努めます。

〔商工業の振興〕

市内企業・事業所の育成強化と経営の安定化に向け、商工業者の指導団体である仙北市商工会が推進する事業の支援に努めるとともに、仙北市中小企業振興資金融資制度等の効果的な活用を促します。また、従業員の技術習得や資格取得など人材の育成を積極的に支援し、昨年制定した「産業振興条例」に基づき、本市の有形無形の資源のPRに努めながら企業誘致活動を実施し、活力ある産業の育成と雇用の場の拡大に努めます。

【建設部関係】

〔道路整備〕

市道整備については、総合計画に基づき進めておりますが、今後も地域からの要望を踏まえ、危険度や緊急性等を勘案しつつ、計画的に進めます。

国庫補助事業の地方道路整備臨時交付金事業として中央線道路改良工事、観光線道路舗装工事、栃の木六本杉線道路改良工事、田沢湖橋樑耐震補強工事を実施します。また、市単独起債事業として豪雪対策、過疎対策、辺地対策及び臨時地方道整備事業で市道改良工事を予定しております。

〔都市計画街路事業・まちづくり交付金事業〕

岩瀬北野線整備は、事業認可期間を1年間延長し、道路改良等事業の早期完成を目指します。

まちづくり交付金事業については、平成19年度、駅東地区において道路、公園、多目的広場の工事を中心に事業を推進して参ります。

〔仙北市都市計画マスタープランの策定〕

旧角館町と旧田沢湖町の都市計画マスタープランを見直し、総合計画を実現する具体的アクションプランとして「仙北市都市計画マスタープラン」の策定に着手します。

〔下水道事業〕

平成18年度に引き続き田沢湖石神、造道、中生保内地区、角館西野川原、上菅沢、中川原地区を整備し地域の水質保全に努めます。

平成18年度末見込みの市全体の公共下水道整備率(整備面積÷認可面積)は51.3%であり、水洗化可能人口も10,705人となっているものの、水洗化人口は5,937人、水洗化率も55.5%であることから、水洗化資金支援制度の活用等もPRしながら水洗化の促進に努めます。

〔集落排水事業〕

田沢地区では、平成18年度より一部工事に着手しており、平成19年度は処理場の建設に着手する予定です。既存の集落排水処理施設についても適正な管理を行い、住民の良好な生活環境の向上に努めます。

〔合併処理浄化槽事業〕

公共下水道事業、集落排水事業等の計画区域以外で汚水の集合処理に適さない地域においては、合併処理浄化槽の整備を進めます。

平成19年度からは、循環型社会形成推進交付金を污水处理施設整備交付金に一本化し、「浄化槽市町村整備推進事業」を進めます。

【企業局関係】

〔水道事業〕

角館地区では、石綿セメント管更新工事を2路線と配水管新設工事を4路線、それに浄水場の急速ろ過機設備更新事業及び白岩簡易水道浄水場天日乾燥池等築造事業、田沢湖地区では、石綿セメント管更新工事として導水管敷設替と田沢及び瀧簡易水道浄水場の集中監視システム装置化事業、西木地区では、北部地区簡易水道基幹改良事業で石綿セメント管更新工事と下桧木内地区統合簡易水道整備事業で配水管改良工事及び北部地区統合簡易水道整備事業で比内沢浄水場の集中監視設備化事業を予定しています。

〔温泉事業〕

湯量確保については昨年(平成18年度)の12月中に、水沢温泉の協力により水沢温泉郷に新たな引湯を開始しており、湯量の安定確保が図られました。

平成19年度は、老朽化が著しい水沢温泉郷にある3棟の分湯槽の改築工事を予定しています。

【教育委員会関係】

〔学校建設事業〕

角館統合小学校建設事業は、平成18年度に引き続き工事を行い、平成20年4月開校に向けて推進していきます。

神代小学校建設事業については、平成19年度に基本設計、実施設計業務を行い、平成20年度からの工事着手に向けて推進していきます。

〔学校教育〕

平成19年度の新入学児童及び生徒の予定人数は、小学校215人、中学校259人です。

児童の安全、安心対策として、学校、地域の皆さま、関係機関との連携を強化し、安心して通学できる環境を整えます。

いじめ、不登校などの未然防止や早期対応のため、教育現場の連携と家庭との連絡を図り、正面から対応する事を徹底し、問題行動の予防と早期発見、再発防止に努めます。

〔生涯学習〕

これまで田沢湖地区、角館地区で実施していた放課後児童健全育成事業を、新たに西木地区の西明寺小学校で開設する予定です。

生涯学習推進の今後5年間の指針となる仙北市社会教育中期計画を策定し推進します。

〔文化財保護〕

草薙家住宅の維持管理を国庫補助事業で行うとともに、松本家住宅屋根の修繕、岩橋家下屋部分の改修工事を予定しています。

天然記念物「角館のシダレザクラ」保存事業は6ヵ年継続事業で、平成19年度が最終年度となり、23本の生育環境改善工事で終了し、その実績を報告書としてまとめます。



角館小学校完成予想図